

高知憲法速報

N o 169 2008. 8. 21

発行：高知憲法会議事務局

088-872-3406

編集人 事務局 徳弘嘉孝

「8・15 戦争を語り継ぐ集い」に130人以上

戦争の実態を語り継ぎ、平和を守ろうと毎年8月15日に開いている「集い」、今年は高知市人権啓発センターで開き、130人以上が集まりました。

県退職教職員協議会の山本忠智さんが情勢にふれながら集いの意義を訴える開会挨拶。高知センター合唱団は多くの子供たちも交えて、「青い空は」と「ねがい」を合唱しました。

19歳のときに広島で被爆した永野初枝さんが、被爆体験を証言しました。永野さんは爆心地から3kmの自宅で被爆、当時の悲惨な街の様子、夫とともに高知に戻ったが二人とも直後から体調が悪化し、入院を繰り返したこと。夫は1999年に他界し、永野さんも幾度となく手術を受けたことなどについて語り、今後も平和のために語り続けたいと述べました。

平和資料館・草の家の岡村正弘館長が講演。草の家の「中国平和の旅」で知った中国の民衆の実態や思い、「韓国平和の旅」で経験した韓国の人々の考え方の変化、反戦詩人楨村浩のことなど、戦争の歴史で考えるべき「加害、被害、抵抗」の3側面について語りました。高知県にも戦争に反対して治安維持法で弾圧された多くの先輩がいることも紹介しました。母親と妹を失った7月4日の高知大空襲については紙芝居で語り、2度と戦争を繰り返さない決意を述べました。

満州からの引き揚げ経験を持つ崎山ひろみさんが関東軍の動きなどに触れながら、置き去りにされた居留民の悲惨な実態を報告し、「軍隊は、国は守っても国民は守らない」と訴えました。

県平和委員会の和田忠明さんが香南市自衛隊の問題について発言し、最後に高教組の掛橋佐和さんが閉会の挨拶を行いました。NHK、高新、朝日、高知民報が取材しました。参加者から、よい集会だったとの声を多く聞きました。なお提出されたアンケートのまとめを付属します。

8・15 集会実行委員会について

総括のための最終会議です。お集まり下さい。
日時；9月2日(火)午後2時から3時
場所；高知城ホール3階 県教組会議室
実行委員会終了後、憲法会議事務局会を開きます。

署名集約状況 8/21現在

会員団体名	署名目標	到達
県労連	20,000	4,315
県教組		1,401
高教組	10,000	221
私学教組		30
自治労連		3,874
県国公		2,200
福祉保育労	3,000	70
平和委員会	5,000	702
民青同盟		
新婦人	20,000	16,849
商工団体連合会	15,000	16,718
自由法曹団		
地域人権連		
高退協		100
治維同盟		
梅原憲作		
共産党県委員会	40,000	2,454
医労連		77
民医連		12,652
学習協		
山下道子法律事務所		
退教協		750
退婦教		3,340
農民組合		
その他		732
街頭署名		4,879
小計		71,364
母連		11,449
うち重複集約(報告)分		9,269
有権者過半数目標/到達合計	331,000	73,544
こうち九条の会街頭署名		6,979

原水爆禁止世界大会・広島

今年の原水爆禁止世界大会は開会総会に6800人、閉会総会に7500人が参加しました。青年の参加が多かったことが特徴です。高知県からは小学生、中学生、高校生、大学生を含む41人が参加しました。開会総会には国連事務総長代理として軍縮問題担当の上級大使が出席して挨拶。多くの政府代表を含む海外代表が、核兵器全廃に向けた運動、当面2010年のNPT再検討会議に向けた運動の強化を訴えました。民医連に属する鹿児島生協病院からは今年医師になった研修医6人全員と中堅医師2人が参加していると報告がありました。

